

被表彰者の功績について

1 兵庫県農業賞

- (1) おかもと とみひろ**岡本 富博**（環境創造型農業技術の確立・普及及び地元産野菜の知名度向上に貢献）
平成7年から葉物野菜の生産を開始し、新品種・新技術の導入や試験に積極的に取り組み、地域の栽培技術と品質の向上を牽引。化学農薬・化学肥料の低減技術導入に組み込み、環境創造型農業技術の確立と普及に貢献した。また、地元産野菜の知名度向上にも尽力し、産地振興に貢献した。
- (2) さわだえいのう**沢田 営農(株)**（高度な栽培管理技術で小麦と大豆の優良種子の安定供給及び原種生産に貢献）
平成6年から小麦と大豆の採種事業に組み込み、高度な栽培管理技術により、契約数量を上回る安定した生産実績を確保。また、県から、小麦と大豆の採種事業を支える原種（種子生産のために使用される種子）生産の委託を受けるなど、良質な種子の安定供給に大きく貢献した。
- (3) きたさか まさひろ**北坂 勝弘**（イチジクの効率的な栽培技術の確立及び生産拡大や知名度向上に貢献）
平成20年からイチジク生産に組み込み、効率的な栽培技術を確立して収量と品質の向上を実現。新規生産者の確保に取り組むとともに、自ら執筆した「淡路島いちじくだより」を地域の生産者へ配布するなど、地域の生産量増加と生産技術の向上に尽力し、淡路島産イチジクの生産拡大と知名度の向上に貢献した。
- (4) たかはし そえむ**高橋 副武**（先進技術導入による繁殖経営モデルの確立及び県下の和牛振興に貢献）
昭和53年から但馬牛の繁殖経営を開始。TMR（完全混合飼料）給与技術やスマート機器導入など先進的な手法を活用して、繁殖成績の向上と作業の効率化を図り、高品質な子牛の安定出荷を実現。優良系統の育成・維持や耕畜連携の推進、また後進育成にも尽力し、地域や兵庫県の和牛振興に貢献した。

2 兵庫県林業賞

- (1) やまだ なおひろ**山田 尚弘**（林業経営の多角化の実践と森林資源を生かした地域林業への貢献）
平成6年から家業の林業に携わり、自伐型から受託型林業経営への転換により集約化施策を推進、さらに法人化や人材育成に組み込み、県下でも最大規模の林業事業体へと成長させた。また、木質バイオマス発電所運営に携わるなど、余すところない木材利用を通じ、地域林業の振興に貢献した。
- (2) みつもり まさずみ**光森 正純**（優れた原木しいたけの生産技術の確立と里山林の循環利用への貢献）
昭和55年から生産に従事、高温でも発生する種菌の採用やほだ木の浸水時間の調整等により通年生産技術を確立、赤佐地域きのこ生産振興会では長年役員を担い、会員の生産技術の向上に貢献した。また、地域の里山林から原木を調達することにより、森林資源の循環利用を通じて公益的機能の維持向上に貢献した。
- (3) すぎもと まさよし**杉本 昌義**（高度な素材生産技術と提案型集約化施策による地域林業への貢献）
昭和53年から素材生産に従事、長年架線集材による効率的な素材生産に取り組んだ。また、他の林業事業体と連携した提案型集約化施策の実践により、丹波地域の原木の安定供給に貢献した。また、県指導林家として、架線技術等の指導や学校での出前講座を通じ、次世代への技術継承と森林林業の意識醸成にも貢献した。

3 兵庫県水産賞

(1) ^{ほしお たかふみ}星尾 隆文（地域漁業の発展と栽培漁業の推進に貢献）

昭和48年から小型底びき網漁業に従事し、直売所の開設により地元水産物の魅力発信に努めるとともに、若手漁業者による二枚貝養殖など新たな取組を支援し、地域漁業の発展に貢献。また、栽培漁業の推進に取り組み、水産資源の回復に貢献。

(2) ^{えんや まさひろ}塩谷 政弘（沖合底びき網漁業の振興と漁協経営の安定に貢献）

昭和51年から沖合底びき網漁業に従事し、ズワイガニの漁期短縮、自主禁漁区域の設定や甲幅制限などの資源管理を先導的に行い、沖合底びき網漁業の経営の安定に貢献。また、平成19年の但馬漁協設立に際し、円滑な合併実現に貢献。

(3) ^{もり にへい}森 二兵（豊かな海の再生と漁獲物の品質向上に貢献）

昭和57年から小型底びき網漁業に従事し、漁業者と農業者が協働したため池のかいぼりの実施を通じて豊かな海の再生に貢献。また、荷さばき施設の改良などにより、漁獲物の活力維持と生残率の向上を図り、漁獲物の品質向上に貢献。